

アフガン難民に医療支援

AMDA理事長
菅波 茂さん(55)

「『反テロ、人道支援』が国際テロに対するAMDAのスタンス。現在もパキスタン・クエッタ市を拠点に、アフガン難民への医療支援を行っています」

国際的な医療支援を続けている国連NGO「AMDA」。理事長の菅波さんはテロ事件後の活動状況をこう語った。テロ事件の様子はテレビで見て、大きな衝撃を受けた。さっそくAMDAは被災者支援活動を開始したが、当初は空路の確保ができず、ニューヨークに医療ミッションを派遣したのは九月十九日だったという。

ニューヨーク到着後、AMDAのメンバーはすぐに現地のユダヤ人団体と協議し、同団体の活動支援にあたった。阪神大震災の時、ユダヤ人団体



地方から貢献目指す 若いうちに国際感覚を

「AMDAは必要とされれば、どこへでも行く」と話す菅波理事長

がAMDAに五万ドル寄付するなど、支援をしてくれたからだ。

「困ったときはお互いさま」の精神で二万ドルを寄付し、被災者とその家族の心理的なケアや支援をする工事を約束しました。とても喜んでくれました」

◇ 今後の課題はアフガンに「困ったときはお互いさま」の精神で二万ドルを寄付し、被災者とその家族の心理的なケアや支援をする工事を約束しました。とても喜んでくれました」

いクエッタ市のホテルを拠点に、同市から約二時間かかるムスタン郡ラテイファバードにキャンプをほった。

アフガンとパキスタン国境から東へ約十五キロの砂漠地帯。難民は一番多いときでは約九千人いた。難民の症状で目立つのは、嘔吐や下痢。子供にとっては命取りだ。難産や未熟児出産も多く、懸命の医療支援を行った。その後、アフガンに帰国する人が増え、現在難民の数は五千人に減少。

◇ 今年末ごろをめどに、地元医療グループに引き継ぎたいと考えているという。

◇ 今後の課題はアフガンに「困ったときはお互いさま」の精神で二万ドルを寄付し、被災者とその家族の心理的なケアや支援をする工事を約束しました。とても喜んでくれました」

◇ 今後の課題はアフガンに「困ったときはお互いさま」の精神で二万ドルを寄付し、被災者とその家族の心理的なケアや支援をする工事を約束しました。とても喜んでくれました」

◇ 今後の課題はアフガンに「困ったときはお互いさま」の精神で二万ドルを寄付し、被災者とその家族の心理的なケアや支援をする工事を約束しました。とても喜んでくれました」

◇ 今後の課題はアフガンに「困ったときはお互いさま」の精神で二万ドルを寄付し、被災者とその家族の心理的なケアや支援をする工事を約束しました。とても喜んでくれました」